

教育委員会だより

いそぎく

発行日 平成17年3月1日
 編集・発行 葉山町教育委員会学校教育課
 〒240-0192 三浦郡葉山町堀内2135
 TEL. 046(876)1111
 FAX. 046(876)2381
 印刷所 (株)神奈川機関紙印刷所

第218号

青少年読書感想文全国コンクール

内閣総理大臣賞に輝く

葉山小学校 六年 石上一翔さん

第五〇回青少年読書感想文全国コンクールで、最優秀作品に授与される内閣総理大臣賞に、葉山小学校六年の石上一翔さんの「夢をあきらめない力」が全国からの応募四〇〇万七五七一編の中から選出されました。石上さんは、「表彰式に行くまでは、こんなすごい賞だとは思わなかったが、会場で実感がわいた」と感想を話してくれました。伊能忠敬の「天と地を測った男」はお母さんから薦められたということで、良い本との出会いが今回の賞のきっかけになったようです。読書の魅力について「いろんな人の考え方・生き方がわかり、これからの自分の目標を見つけるヒントになる」と明快に答えてくれました。なお、今回の受賞により、葉山町からも特別表彰されました。

「夢をあきらめない力」



「緯度一度分の長さは一一一km」この事実を僕はすでに知っていた。しかしそれは、単に数字として覚えた知識の一つにすぎなかったと、この本を読んで改めて気付いた。たった一つの事実の裏には、一人の人間が生涯をかけて貫いた夢への情

熱と努力があったのだ。

伊能忠敬は、約二百年前に初めて日本全国の正確な地図を書いた人だ。北海道から九州までの海岸線や山や道を歩いて距離を測り、それを畳二百四十枚分の「大図」と、八枚分に縮小した「中図」と、三枚分に縮小した「小図」にまとめた。現代の地図とほとんど変わらない程の精密な地図である。

当時は衛星写真も優れた測量器具もなかったのに、どうしてこれ程の地図が書けたのか。それは忠敬が徹底して「正確さ」にこだわり、星の観測を初めて測量に取り入れたからだ。

まず地上の距離を測るために、初めは歩幅を一定に保って歩き、次は縄を使い、最後は伸縮のない鉄の鎖を使った。曲がり角ごとに角度を測り、必ず二人で同じ所を二回測る等、常に工夫した。それでも誤差が出るので、晴れた夜は毎晩星を観測して、測量している各地の緯度を調べ、そこは地表のどこにあたるかを確かめていった。そしてとうとう緯度一度分の長さを突き止める、実際に測量した数字の誤差を減らすことに役立てたのである。

忠敬は決して「諦める」ことをしない。どんな逆境にあっても、その時にできる精一杯のことをした。そのようにして忠敬が夢への第一歩を踏み出したのは、なんと五十五歳の時である。「もう、いいや」と諦めてしまってもおかしくない年齢だ。しかも全国を歩

いて測量する旅は体力的にも過酷に違いないのに。

僕はどうかろう。ヨットのレースに出る時、「上位入賞したい」と思っただけでも、出だしが悪いと諦めてしまうことが多い。すると僕より遅かった選手に抜かれたりするのだ。忠敬の粘り強さを見習いたいと思った。改めて忠敬の書いた地図を見ると、現代の地図にはない印がある。山脈に沿った部分には、測量した道筋を示す「測線」がジグザグに引かれ、周辺に、宿場を示す「○」が密集している。きつと山や谷を越えるのに苦労し、測量に何日もかかったんだ。逆に平地では「○」が等間隔に並び、天体観測の場所を示す「☆」がポツンとある。ここではきつと測量も順調に進み、夜は星空を見上げて隊員達と夢を語り合ったのではないだろうか。こうして作られた地図に当時の人々はどれ程助けられただろう。初めて自分の国の姿を知っただけでなく、きつと僕達のように地図を見ながら旅の予定を立てたに違いない。忠敬の軌跡が残るこの地図を僕はとても身近に感じた。

僕も忠敬と同じで算数が好きだ。この力を生かして将来人の役に立っている事ができたらいいと思う。具体的に何がしたいか、その夢が見つかった時、僕も忠敬のように何歳になっても夢を諦めない力を持っていたい。そして歴史を作る一步を踏み出せたら最高だ。